



平成30年7月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年6月11日

上場会社名 株式会社シーズ・ホールディングス
 コード番号 4924 URL <http://ci-z-holdings.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石原 智美

問合せ先責任者 (役職名) 取締役財務部長 (氏名) 小杉 裕之

TEL 03-6419-2500

四半期報告書提出予定日 平成30年6月12日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績(平成29年8月1日～平成30年4月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する四半期純利益 | |
|-------------|--------|------|-------|------|-------|------|------------------|------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % |
| 30年7月期第3四半期 | 35,809 | 16.3 | 5,506 | 10.2 | 5,555 | 11.7 | 3,578 | 19.6 |
| 29年7月期第3四半期 | 30,787 | 16.1 | 6,130 | 41.6 | 6,288 | 46.5 | 4,449 | 56.5 |

(注) 包括利益 30年7月期第3四半期 3,641百万円 (21.8%) 29年7月期第3四半期 4,654百万円 (63.1%)

| | 1株当たり四半期純利益 | 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益 |
|-------------|-------------|--------------------|
| | 円 銭 | 円 銭 |
| 30年7月期第3四半期 | 73.58 | |
| 29年7月期第3四半期 | 91.49 | |

(2) 連結財政状態

| | 総資産 | 純資産 | 自己資本比率 | 1株当たり純資産 |
|-------------|--------|--------|--------|----------|
| | 百万円 | 百万円 | % | 円 銭 |
| 30年7月期第3四半期 | 50,791 | 33,219 | 63.4 | 662.06 |
| 29年7月期 | 39,536 | 32,009 | 78.6 | 639.09 |

(参考) 自己資本 30年7月期第3四半期 32,199百万円 29年7月期 31,082百万円

2. 配当の状況

| | 年間配当金 | | | | |
|------------|--------|--------|--------|-------|-------|
| | 第1四半期末 | 第2四半期末 | 第3四半期末 | 期末 | 合計 |
| | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 | 円 銭 |
| 29年7月期 | | 0.00 | | 50.00 | 50.00 |
| 30年7月期 | | 0.00 | | | |
| 30年7月期(予想) | | | | 57.00 | 57.00 |

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成30年7月期の連結業績予想(平成29年8月1日～平成30年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

| | 売上高 | | 営業利益 | | 経常利益 | | 親会社株主に帰属する当期純利益 | | 1株当たり当期純利益 |
|----|--------|------|--------|------|--------|------|-----------------|------|------------|
| | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 百万円 | % | 円 銭 |
| 通期 | 52,600 | 22.6 | 10,400 | 21.4 | 10,400 | 18.6 | 7,060 | 17.9 | 145.16 |

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注)詳細は、添付資料P. 8「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

以外の会計方針の変更 : 無

会計上の見積りの変更 : 無

修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)

| | | | |
|----------|--------------|--------|--------------|
| 30年7月期3Q | 48,635,255 株 | 29年7月期 | 48,635,255 株 |
|----------|--------------|--------|--------------|

期末自己株式数

| | | | |
|----------|-------|--------|------|
| 30年7月期3Q | 151 株 | 29年7月期 | 70 株 |
|----------|-------|--------|------|

期中平均株式数(四半期累計)

| | | | |
|----------|--------------|----------|--------------|
| 30年7月期3Q | 48,635,145 株 | 29年7月期3Q | 48,635,220 株 |
|----------|--------------|----------|--------------|

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

| | |
|------------------------------------|----|
| 1. 当四半期決算に関する定性的情報 | 2 |
| (1) 経営成績に関する説明 | 2 |
| (2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 | 3 |
| 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 | 4 |
| (1) 四半期連結貸借対照表 | 4 |
| (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 | 6 |
| 四半期連結損益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 6 |
| 四半期連結包括利益計算書 | |
| 第3四半期連結累計期間 | 7 |
| (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 | 8 |
| (継続企業の前提に関する注記) | 8 |
| (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) | 8 |
| (当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動) | |
| (四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用) | 8 |
| (セグメント情報等) | 8 |
| (重要な後発事象) | 10 |

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかに回復していくことが期待されております。ただし、海外経済の不確実性や金融資本市場の変更の影響に留意する必要があります。

このような環境の中、拡大するオールインワンゲル市場における優位性を確保すべく、当社はドクターシーラボ事業で主力商品である「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」をリニューアル発売いたしました。当第3四半期連結累計期間の経営成績については、第2四半期連結会計期間から新たに株式会社セドナエンタープライズが連結対象となり、前年同期と比較して連結売上高と各段階利益が増加した一方で、容器不足によるラボラボブランドの出荷調整、外部ECサイトを通じた通信販売のリベートが増えたことによる収益性の悪化、広告販促費の売上に対する効率性の低下といった傾向が、当第3四半期連結会計期間において見受けられました。

以上により、売上高は35,809百万円（前年同期比16.3%増）、営業利益は5,506百万円（前年同期比10.2%減）、経常利益は5,555百万円（前年同期比11.7%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は3,578百万円（前年同期比19.6%減）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

<ドクターシーラボ事業>

ドクターシーラボ事業をブランド別に見ますと、広告販促費を前年同期比で増加させたことも有り、前年同期比で売上高が増加しました。2018年2月に「アクアコラーゲンゲルエンリッチリフトEX」のリニューアル発売を行い、無料サンプルを提供するTVCMを放映するなど、積極的な広告販促活動を行いました。また、第2の柱であるVC100シリーズや、「スーパーホワイト377」、スーパー100シリーズの「EGF」などのスペシャルケア商品の売上高も引き続き好調に推移いたしました。

ラボラボブランドは、インバウンド需要の恩恵を最も受けた「スーパー毛穴ローション」が、一時供給不足の問題が発生したものの、化粧品全体の売上高増加に貢献いたしました。さらに、2018年4月に新発売した「毛穴ローションマスク」などの毛穴ケア関連商品の充実化を図るなどして、毛穴ケアブランドとして認知が高まっております。

ジェノマーブランドは、高価格帯のブランドとして定期的に既存商品のリニューアル及び新商品の発売を行っており、アンチエイジングブランドとしての認知度の強化・定着化を図っております。

健康食品については、2018年4月に新味である「美禅食ゼリーアサイーベリー風味」を発売し、美禅食シリーズの商品を中心に、インフォマーシャルなどの広告宣伝費を積極的に投下いたしました。加えて、お悩み対策サプリメント「モレスト」の拡販を推し進めるとともに、ビタミンCサプリメント「メガリボVC100」、医薬品のビタミンタブレット「VCピュア2000」といったビタミンC商材としての認知度拡大のための訴求を今後も強化してまいります。

以上により、ドクターシーラボ事業の売上高は、30,714百万円（前年同期比6.4%増）、営業利益は5,241百万円（前年同期比9.1%減）となりました。

次にドクターシーラボ事業を販路別に見ますと、積極的に広告販促費を投下したこともあり、通信販売においてはAmazonのドクターシーラボ公式通販サイトでの売上が増加いたしました。また、新たな顧客層の獲得及びライユーザーの購入定着化を図るべく、各種キャンペーンの強化や、会報誌の種類を新規に増やすなどの施策を行ってまいりました。しかしながら、前連結会計年度に離脱したお客様の影響が当第3四半期連結会計期間においても継続し、アクアコラゲングルシリーズのセット商品及び200g版の販売状況も、想定よりも振るわない結果となりました。以上により、通信販売の売上高は17,170百万円となり、前年同期と比較して5.1%増加にとどまりました。

卸売販売においては、中華圏のお客様に人気がある「スーパー毛穴ローション」のインバウンド効果が、大幅に上回る売上高となりました。2017年12月頃から、当該商品の容器生産が需要に追いつかず、供給が不足傾向にありましたが、当第3四半期連結会計期間末においてはほぼ解消しております。また、相対的に顧客割合が少ない20代後半から30代前半の顧客層を拡大させるべく、幅広い世代から人気の高いVC100シリーズの販促活動を前連結会計年度に引き続いて推し進めてまいりました。以上により、卸売販売の売上高は7,951百万円となり、前年同期と比較して19.3%増加いたしました。

対面型店舗販売では、当第3四半期連結累計期間において5店舗の閉店をした一方で、4店舗の新規開店を行いました。新規顧客及び既存顧客獲得のために、継続的なお手入れ会を実施してきたことに加え、来店客数及び来店回数増加を目的として、来店客へのプレゼント贈呈や、商品の試用・カウンセリングをご提供する機会を多く設けるなどの施策を積極的に行ってまいりました。さらに海外でまだ販売されていない商品の売上が急増するなど、関西地区の百貨店を筆頭とした外国人観光客のインバウンド需要拡大により、売上高は好調に推移しました。以上により、対面型店舗販売の売上高は、3,301百万円となり、前年同期と比較して15.1%増加いたしました。

海外においては、米国のジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業主導のもと、主にアジア圏の国を対象とした広告販促活動を積極的に実施し、特に中国・韓国は海外売上全体で占める割合が高い国となっております。海外市場での認知度も向上し、国内におけるインバウンド需要にも好影響がある中、国内免税店におけるトラベルリテールの売上が好調でした。前第3四半期連結会計期間以降は、ジョンソン・エンド・ジョンソンのグループ企業の販売額に対する一定のロイヤリティ収入が収益の柱となっております。なお、会計上の観点からでは、売上高は従前よりも減少する一方で、現地における販促促進費を始めとする費用負担が発生しなくなるため収益性が向上することとなります。以上により、海外その他の売上高は2,291百万円となり、前年同期と比較して23.4%減少いたしました。

<エステ・サロン事業>

エステ・サロン事業においては、企業別に見ますと、まず株式会社シーズ・ラボは当第3四半期連結累計期間において3店舗の新規出店を行いました。売上高については、低単価であるフェイシャル、ニキビケアなどは好調に推移いたしました。高単価のボディ、ダイエットが低調な販売状況だったため、店舗の収益性が低下いたしました。費用面では、新規店舗開店に伴う費用が先行した影響により、新規店舗の店舗別損益はマイナスとなっております。以上の要因により、前年同期と比較し、減益となっております。

次に株式会社セドナエンタープライズが運営する脱毛ラボについては、新規メニューを導入するなど、同業他社との差別化を図る施策を実施いたしました。物品販売及び新規契約数は増加した一方で、美容脱毛サービス市場は競合他社との競争が激しくなっている影響により、成功報酬型の単価が上昇し、広告宣伝費が増加しております。その結果、営業利益については当初予算より低い水準で着地することとなりました。

以上により、エステ・サロン事業の売上高は、5,095百万円（前年同期比164.5%増）、営業利益は249百万円（前年同期比31.4%減）となりました。

(2) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成29年12月11日に発表しました連結業績予想は変更ありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年7月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 資産の部 | | |
| 流動資産 | | |
| 現金及び預金 | 21,508,565 | 22,896,337 |
| 受取手形及び売掛金 | 4,998,887 | 5,068,116 |
| 有価証券 | 138,968 | 49,655 |
| 商品及び製品 | 2,986,039 | 3,449,484 |
| 原材料及び貯蔵品 | 1,337,708 | 1,576,344 |
| その他 | 1,483,811 | 3,000,825 |
| 貸倒引当金 | △25,118 | △261,622 |
| 流動資産合計 | 32,428,861 | 35,779,141 |
| 固定資産 | | |
| 有形固定資産 | | |
| 建物 | 1,187,383 | 1,765,874 |
| 減価償却累計額 | △466,563 | △526,349 |
| 建物(純額) | 720,820 | 1,239,524 |
| 工具、器具及び備品 | 1,499,518 | 2,065,406 |
| 減価償却累計額 | △1,171,895 | △1,294,911 |
| 工具、器具及び備品(純額) | 327,623 | 770,494 |
| 土地 | 1,315,861 | 1,315,861 |
| その他 | 106,877 | 36,590 |
| 減価償却累計額 | △45,495 | △10,297 |
| その他(純額) | 61,382 | 26,292 |
| 有形固定資産合計 | 2,425,687 | 3,352,174 |
| 無形固定資産 | | |
| ソフトウェア | 1,890,601 | 1,959,000 |
| ソフトウェア仮勘定 | 43,579 | 91,245 |
| のれん | 1,889,521 | 8,314,608 |
| その他 | 17,265 | 15,115 |
| 無形固定資産合計 | 3,840,967 | 10,379,969 |
| 投資その他の資産 | | |
| その他 | 861,088 | 1,385,096 |
| 貸倒引当金 | △20,534 | △105,352 |
| 投資その他の資産合計 | 840,553 | 1,279,744 |
| 固定資産合計 | 7,107,208 | 15,011,888 |
| 資産合計 | 39,536,070 | 50,791,029 |

(単位:千円)

| | 前連結会計年度 (平成29年7月31日) | 当第3四半期連結会計期間 (平成30年4月30日) |
|---------------|-------------------------|------------------------------|
| 負債の部 | | |
| 流動負債 | | |
| 買掛金 | 1,057,283 | 1,407,578 |
| 未払金 | 2,661,198 | 2,085,828 |
| 短期借入金 | — | 800,000 |
| 前受収益 | 821,666 | 566,666 |
| 前受金 | 1,096,414 | 7,025,596 |
| 未払法人税等 | 698,196 | 1,099,152 |
| 賞与引当金 | 175,895 | 200,736 |
| ポイント引当金 | 231,917 | 211,227 |
| その他 | 344,255 | 712,802 |
| 流動負債合計 | 7,086,828 | 14,109,588 |
| 固定負債 | | |
| 長期借入金 | — | 2,870,000 |
| 退職給付に係る負債 | 261,145 | 289,768 |
| その他 | 178,460 | 302,527 |
| 固定負債合計 | 439,605 | 3,462,295 |
| 負債合計 | 7,526,433 | 17,571,883 |
| 純資産の部 | | |
| 株主資本 | | |
| 資本金 | 2,959,358 | 2,959,358 |
| 資本剰余金 | 3,436,758 | 3,436,758 |
| 利益剰余金 | 24,638,870 | 25,785,596 |
| 自己株式 | △230 | △621 |
| 株主資本合計 | 31,034,756 | 32,181,091 |
| その他の包括利益累計額 | | |
| その他有価証券評価差額金 | 15,720 | 23,281 |
| 為替換算調整勘定 | 31,690 | △4,988 |
| その他の包括利益累計額合計 | 47,411 | 18,292 |
| 非支配株主持分 | 927,468 | 1,019,762 |
| 純資産合計 | 32,009,636 | 33,219,146 |
| 負債純資産合計 | 39,536,070 | 50,791,029 |

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日) |
|------------------|---|---|
| 売上高 | 30,787,954 | 35,809,604 |
| 売上原価 | 6,532,181 | 8,801,119 |
| 売上総利益 | 24,255,772 | 27,008,485 |
| 販売費及び一般管理費 | 18,124,865 | 21,501,676 |
| 営業利益 | 6,130,907 | 5,506,809 |
| 営業外収益 | | |
| 受取利息 | 1,539 | 1,246 |
| 受取配当金 | 1,175 | 1,525 |
| 為替差益 | 104,469 | — |
| 受取手数料 | 25,231 | 22,315 |
| 商品破損受取賠償金 | 8,649 | 7,735 |
| その他 | 20,822 | 42,059 |
| 営業外収益合計 | 161,889 | 74,883 |
| 営業外費用 | | |
| 支払利息 | 316 | 1,083 |
| 支払補償費 | 3,456 | — |
| 為替差損 | — | 23,698 |
| その他 | 251 | 1,617 |
| 営業外費用合計 | 4,024 | 26,399 |
| 経常利益 | 6,288,772 | 5,555,293 |
| 特別利益 | | |
| 固定資産売却益 | 3,963 | 3,679 |
| 投資有価証券売却益 | — | 15,912 |
| 事業譲渡益 | 358,370 | — |
| 特別利益合計 | 362,333 | 19,591 |
| 特別損失 | | |
| 減損損失 | 62,734 | 1,288 |
| 固定資産除却損 | 18,244 | 18,973 |
| 固定資産売却損 | 33 | — |
| 特別損失合計 | 81,012 | 20,261 |
| 税金等調整前四半期純利益 | 6,570,093 | 5,554,623 |
| 法人税等 | 2,006,392 | 1,887,085 |
| 四半期純利益 | 4,563,700 | 3,667,538 |
| 非支配株主に帰属する四半期純利益 | 113,957 | 89,053 |
| 親会社株主に帰属する四半期純利益 | 4,449,743 | 3,578,484 |

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

| | 前第3四半期連結累計期間 (自平成28年8月1日 至平成29年4月30日) | 当第3四半期連結累計期間 (自平成29年8月1日 至平成30年4月30日) |
|-----------------|---|---|
| 四半期純利益 | 4,563,700 | 3,667,538 |
| その他の包括利益 | | |
| その他有価証券評価差額金 | △2,232 | 10,800 |
| 為替換算調整勘定 | 93,065 | △36,679 |
| その他の包括利益合計 | 90,832 | △25,878 |
| 四半期包括利益 | 4,654,533 | 3,641,659 |
| (内訳) | | |
| 親会社株主に係る四半期包括利益 | 4,541,245 | 3,549,365 |
| 非支配株主に係る四半期包括利益 | 113,288 | 92,293 |

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動)

該当事項はありません。

なお、特定子会社の異動には該当していませんが、第2四半期連結会計期間において、株式取得により株式会社セドナエンタープライズを連結の範囲に含めております。

当第3四半期連結会計期間より、株式会社日本健康医学研究所は、株式会社セドナエンタープライズを存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自平成28年8月1日至平成29年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | 計 | 調整額 (注) 1 | 合計 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|---------------|------------|--------------|-------------|
| | ドクターシー ラボ事業 | エステ・サロ ン事業 | | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 28,861,912 | 1,926,042 | 30,787,954 | — | 30,787,954 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 71,397 | — | 71,397 | △71,397 | — |
| 計 | 28,933,309 | 1,926,042 | 30,859,351 | △71,397 | 30,787,954 |
| セグメント利益 | 5,768,906 | 364,366 | 6,133,273 | △2,366 | 6,130,907 |

(注) 1. セグメント利益の調整額△2,366千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自平成29年8月1日至平成30年4月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

| | 報告セグメント | | 計 | 調整額 (注) 1 | 合計 (注) 2 |
|-----------------------|----------------|---------------|------------|--------------|-------------|
| | ドクターシー ラボ事業 | エステ・サロ ン事業 | | | |
| 売上高 | | | | | |
| 外部顧客への売上高 | 30,714,281 | 5,095,322 | 35,809,604 | — | 35,809,604 |
| セグメント間の内部 売上高又は振替高 | 115,952 | 96,938 | 212,891 | △212,891 | — |
| 計 | 30,830,234 | 5,192,261 | 36,022,495 | △212,891 | 35,809,604 |
| セグメント利益 | 5,241,927 | 249,786 | 5,491,714 | 15,094 | 5,506,809 |

(注) 1. セグメント利益の調整額15,094千円は、未実現利益及びセグメント間取引の消去等を表しております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

重要性が乏しいため、記載を省略しております。

(のれんの金額の重要な変動)

のれんの金額の重要な変動はありません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。